

20 乳がん手術患者(T1-T2N0M0) に対する腋下リンパ節郭清施行率

指標の解説

- 以前までは、乳がんの手術時にはわきの下(腋下)にあるリンパ節を切除することが一般的だったが、リンパ節にがんの転移がない場合は切除しても意味がない上、リンパ浮腫や腕のしびれなどの後遺症の原因となることから、現在は、がんの転移が認められる場合のみリンパ節の切除を行うことが多い。
- 「T1-T2」は「しこりが5cm以下」の意味であり、「N0」は「リンパ節転移なし」、「M0」は「遠隔転移なし」を示している。つまり、がんが比較的小さく、転移をしていない状態のことであり、このような乳がん患者に対する腋下リンパ節郭清を行った割合が低ければ、センチネルリンパ節生検の適切な実施及び術後のQOL早期向上への対応が評価できる。

分子: 腋下リンパ節郭清を行った症例数

分母: 18歳以上の乳がん(初発・T1-T2N0M0)で入院して手術を行った症例数

